



ゴッホが描いた星空

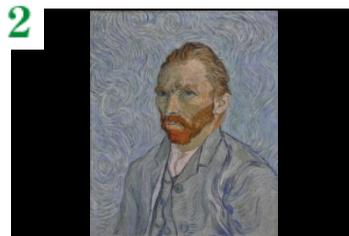
星の絵を描いた画家が少ない中、ゴッホは、星や月、金星、太陽などの絵を描きました。ゴッホは、果てしなく広がる空に何を想い、何を託したのでしょうか。ゴッホの絵画と書簡に魅かれた青年は、ゴッホの心に触れたいと、足跡をたどる旅に出るのです。南仏でゴッホが描いた太陽や星空を見上げた時、青年の心に去来するものは何だったのでしょうか。～ゴッホの心を探る旅に、あなたをご案内いたします～

＜ゴッホが語る台詞はすべて、書簡の中の一文を用いています＞

投影時間 30分 対象 小学校高学年～一般
登場人物 ゴッホ ゴッホの絵と書簡に魅かれる青年 ナレーション
素材 全天周デジタル版 (スライド版/100枚+VTR/20分)



1 900通近くも残している書簡の中から宇宙感を記した一文で物語は始まります。「星空を見てみると、わたしはいつも夢に誘われる。汽車に乗って、いろんな町に行けるなら、何かに乗って、どこかの星にも行けるはずだ」



2 この書簡に心ひかれ、星空を描いた絵画を探してみた青年は、ますますゴッホの心に触れたいと思うようになります。そして、オランダからパリ、そして南仏へ、最後の地オーヴェールへと、彼の足跡をたどる旅に出るのです。



3 ゴッホは150年程前、オランダ南部の村に生まれました。最初から画家になりたかったわけではなく、いくつかの職場に生きがいを求めるのですが、どこにも居場所はありません。ようやく画家をめざした時、彼は27歳でした。



4 弟を頼ってパリに来たゴッホは、印象派の画家や彼らが絶賛する日本の浮世絵に影響を受け、絵も明るい画風が変わっていきます。浮世絵や書物から日本や日本人画家にも興味をもったゴッホは南仏をめざすのでした。



5 アルルに日本と同じような透明感や明るさを感じたゴッホ。青年はアルルのまばゆい太陽に、温かな優しさを感じるのです。ゴッホが描いたアルルの街を散策しながら、青年は風景の中にゴッホの絵を見つけていきます。



6 「夜は、昼よりもずっと色彩豊かなのだよ」鮮やかな夜を描いた絵画に出会う青年。『ローヌ川の星月夜』をスケッチした夜のローヌ川に立ち、ゴッホが眺めた時期と同じころの夜空を眺め、ゴッホの心に想いを馳せるのでした。



7 アルルで画家たちの共同生活を夢見ていたゴッホですが、やって来たのはゴーギャンただ一人。それも2カ月足らずで終わりを迎えるのです。絶望を感じながらも絵を描き続けるゴッホの真摯な姿勢に、青年は彼の絵に魅かれる理由を見出すのでした。



8 サン・レミの療養院では、発作の再発に怯えながらも、名作『星月夜』をはじめ、重要なモチーフだった糸杉を描いたゴッホ。青年にはその糸杉が、画面を突き抜け、空のもっと果ての宇宙を指さしているように思えるのです。



9 オーヴェールでは『夜の白い家』をはじめ、精力的な創作に励むゴッホですが、静かな日々は長く続かず、最愛の弟テオに看取られ息を引き取ります。2000点以上も残された絵画は、今も私たちに惹きつけて止みません。



10 旅を終えた青年には、ゴッホの人生が暗く重いものには思えず、彼が星空のもっと先にある宇宙に心を馳せ、生きる指針としていたように感じられるのでした。「今、空高く、星と無限をはっきりと感じることができる。そういう時、やはり人生は、魅惑的だ」